



Compassionと珠玉の名訳 (3)



医療法人パリアン理事長 川越 厚

パリアンと姉妹関係にあるホスピスハワイは、米国のホスピスが営利主体の大規模化が進む中であって、確かに規模は少しずつ大きくなっているが、質を重視した素晴らしいケアをいまも提供している。それだけではなく、先駆的な働きとして近年は小児がんのホスピスケアにも取り組んでいる。ぶれることなくホスピスハワイが今も変わらずよい働きを続けているのは、KenがCEO(最高経営責任者)を務めていることと無関係ではない。いやむしろ、彼がホスピスハワイの経営者だからこそ、また彼の看護師の視点できめ細やかなケアを提供しているからこそ、今も変わらずホスピスハワイが地域の絶大な信頼を勝ち得ているのだと思う。

Ken夫妻との個人的な親交は10数年に及ぶが、彼のおかげで僕たちはホスピスケアの深淵を覗くことができ、より深い共感と理解を持つことができるようになった。この思いはKenも同じだろう。その彼がまた日本にやってきたのだ。今回(2014年2月)来日の目的は、ホスピスケアナースの育成・教育について講義するためだった。招いたのは聖路加看護大学の林教授(成人看護)。この方もKenと同じく看護の指導者として、僕が畏敬している友人である。

さて東京での講義、松山ベテル病院での講演が終了し、僕たちは東京に戻ってきた。パリアンでの歓迎会の夜、Kenはパリアンの職員のために短いスピーチをしてくれた。今回の旅で彼が話した内容のエッセンスを語ってくれたのだが、その通訳をしてくれたのが重松加代子さん。現役のばりばりの同時通訳者である。彼女がCompassionをどのように訳すか、僕は興味津々だった。彼女にとっては初めて耳にするKenのスピーチではあったが、いつもの名訳で会場に集まった人々に彼の話を通訳していた。



“深い思いやり”。彼女は迷うことなくCompassionをこのように訳していた。

後日、かつての花形同時通訳者がこのCompassionの訳で頭を痛めた話をする、「難しい言葉ですね。ふつう“思いやり”というような言葉があてがわれるのですが、Kenはこの言葉にそれ以上の意味を持たせていました。“深い”という言葉添えるのがいいのでしょうか」と、現役の同時通訳者は迷うことなくこのように訳した真意を教えてくれた。僕も英語には自信があったが、この二人のプロの前では脱帽するしかなかった。Interpreter(通訳者)は、英語から日本語への単なる置き換えをするプロではない。原語の意味を理解し、話す人の言葉のニュアンスを明確にし、しかもその内容を忠実に聞く相手に伝えなければならない。それがプロたる所以なのだろう。そのような高度な技を持ったプロが、三人も僕の親しい友人にいる。彼女たちは僕の誇りであり、宝である。

ホスピスケアはよく、橋(Bridge)や虹(Rainbow)に例えられる。これは異なる立場の人と人とを結ぶケア、ということの意味するのだと思う。異なる立場の人と人とは、たとえばケアを受ける患者とケアを提供する医療者、渦中の患者とその家族、ケアを提供する複数の専門職、などのことだ。それらの人々を結びつけるのが、ホスピスケアなのである。通訳者も同じような働きを行っている。

“深い思いやり”。この言葉は、チームの仲間を深く結びつける、まさに珠玉の名訳だ。(完)

平成26年度パリアン那須研修慰安旅行(5/29~30)

パリアンチーム力が試される湯温48度の“鹿の湯温泉”

今年度もサンダンスリゾート那須を借り切って、那須研修慰安旅行が5月29日、30日の1泊2日で行われた。研修の内容はみんなで企画し、乗り物の手配も分担してやるというパリアンがケア方針を決めるプロセスと同じようなチーム力を発揮した。

医師、看護師、ヘルパー、事務職、ボランティアが集まり、同じ目的で共に行動し、各業種を越えてチームパリアンの結束が強くなった研修となった。



鹿の湯入浴後のメンバー



つつじ吊橋を渡ったところで

第1日目の研修地は、「鹿の湯」。

この温泉は湯温41度から48度までの浴槽に分かれているが、今回の男性メンバーは全員、44度までの浴槽に入った。高温風呂は長湯厳禁、入浴も4回が限度は鉄則だ。夜は認知症予防ゲームに真剣に取り組んでいた。

第2日目は山つつじ群生地の散策。遊歩道の途中に懸かった「つつじ吊橋」の横揺れと高所体験実習。吊橋は下が見える構造になっていて、ここで川越理事長の高所恐怖症が実証された。

パリアン勉強会 テーマ「相談外来」

講師：医療法人社団パリアン理事長 川越 厚

人生最大の危機（死）に直面している患者とその家族の希望内容を明確化し、その希望が実現する方向を目指して相談支援を行うという、パリアン独自の相談外来を患者にとってより良いものにするため、マニュアル変更などについての勉強会を6月6日に行った。

相談外来の受診者は在宅療養希望者とは限らず、病院からの指示で来たなど積極的意思ではない場合も多い。混乱し戸惑っている、どうしたらいいかわからない、という中で死が迫っていて悲しんでいる患者や家族が圧倒的に多く、「病院から見捨てられた」という気持ちが非常に強い。まずは混乱状態の患者や家族と初対面で向き合いつつ、医師としての説明を充分行うことにより信頼関係を確立して平静を取り戻してもらおう。次に問題点を整理し、最終的にどうしたいかを「自己決定」できるまで支援を行っている。過去13年間で2135名（164名/年、3~4名/週）がパリアンの相談外来を受診しており、在宅緩和ケアを希望する受診者（80%が希望）には開始に向けた支援を、相談外来のみの受診者では他の往診医を紹介したり、患者や家族が決断した道案内を行っている。



パリアンの相談外来受診患者（がん患者）の
転帰（2000/7~2013/6）



相談外来を実施していくには、技術と経験だけでなく熱意が重要だ。今後は、相談外来質問票の記入に沿っての予診と医師の相談外来終了後の説明などに看護師の関りを増やして、患者・家族により一層きめ細かい対応ができるようにマニュアルを変更することとしている。変更の内容とその意義をスタッフがよく理解するための勉強会であった。

職員からの質問には、信頼関係の確立に関してや、患者・家族の十分な納得を待って在宅ケアを開始するケースとケアを開始してから信頼関係を確立するケースの違いなど、これから実際に相談外来を担当する看護師らしいものが多かった。

公開定期カンファレンス

テーマ「一人暮らし末期がん患者の暮らしを支える」

パリアン公開定期カンファレンスは6月27日午後5時から、墨田区立川のパリアン研修室で、部外からの参加者5名も加わって行われた。

今回のテーマ「一人暮らしの末期がん患者の暮らしを支える」患者は、脳腫瘍末期の50代の男性、若い時両親が離婚し、また本人も離婚し、その後子供には会っていないという経歴を持つ。

脳腫瘍の末期にパリアンの在宅ホスピスケアに移ってきた。今年1月から緊急電話が多くなり、「電話をしても来てくれない」などパリアンなどへの苦情が増えた。顕著だったのは、2月のある日の言動である。「痛いのに検査もしてくれない」「パリアンは何もしてくれない」「余命宣告された人の気持ちをわかってくれない」という訴えが続き、救急車を呼んだことである。残りの日が僅かなことを悟り、一人で最期を迎える不安、淋しさ、苦しみを募らせていたと思われる。生き別れの子供との再会は「会いたいけど会えない」と吐露していることや娘の集合写真を持ち歩いていることを考えると、家族への思いが強かったことがうかがえる。娘さんに連絡をとってみるのも一方法だったのではないか。彼の不安感、孤独感にもっと踏み込むべきではなかったかが問われたカンファレンスであった。

カンファレンスの最後に川越医師はこう言い結んだ。「フィジカルな痛みはしっかり取ること。信頼関係がないと不安は必ず出てくる。信頼関係は、その人の痛みに触れ、苦しみに入り込まないと築けない。我々が、何故、患者さんや家族が信頼してくれるかと言うと、痛いところをとってくれる、辛いところをちゃんと聞いて、それに対応しているからである。」



公開カンファレンスの模様

スタッフ紹介

第2回 看護師の巻

①星座②出身地③趣味④一言

川越博美 (訪問看護パリアン看護部長)

①牡牛座②広島③寝ること、イングリッシュハーブを奏でる(下手の横好き)④訪問看護師の化石が現場で働かせてもらっていることに感謝。死にゆく人とご家族から、この年になっても学ぶことがいっぱいです。

本田晶子 (訪問看護パリアン所長)

①射手座②墨田区④お祭り好きで涙もろく、生粋の江戸っ子です。5歳のわんぱく息子で、忍耐力と筋力を鍛錬中

高橋寿美代---①双子座②広島③のんびりすること④それぞれの持ち味が出せる旨味あるチームケアっていいですね。毎日が勉強です。

千葉麻衣-----①水瓶座②千葉県松戸市③お菓子作り、トランペット④見た目も趣味も文化系ですが、心の中は体育系です。これからは雑草魂で、頑張ります。

平岩 奏-----①双子座②新潟③カメラ、食べ・飲み歩き④パリアンで出会った患者・家族、人間味溢れるスタッフに励まされ、訪問看護を続けています。

仲光美希-----①牡羊座②千葉県③音楽・絵画鑑賞、合唱、史跡巡り(最近です)④素敵な仲間恵まれて、日々嬉しく楽しく訪問してます。よろしくお祈りします。

飛延愛子-----①牡羊座②兵庫県③旅行④早いものでパリアンに来て1年が経ちました。たくさんの素敵な出会いに感謝です。

成澤智恵子---①天秤座②神奈川県相模原市③カフェ・純喫茶めぐり、アロマセラピー④パリアンに入職して3ヶ月。お肌の曲がり角は過ぎましたが、着々と日焼けしています。

和田美保-----①蟹座②千葉県市川市③舞台鑑賞、散歩④日焼けによるシミが気になる年頃ですが、自転車ですら爽やかに訪問させていただきます！

賢見卓也-----①乙女座②兵庫県③スノーボード④唯一の男性看護師です。パリアンでは、死そのものと向き合うホスピスの基本を学びました。

横田喜久恵---②岡山県③水泳、クラシック鑑賞、コーラス④パリアンでは古参になってはいますが、これからも細く長くお世話になりたいと思います。

浦田和美-----よろしくお祈りいたします。



医師達と訪問看護パリアンの看護師達

ボランティア基礎講座開かれる

6月21日パリアン研修室で

パリアンボランティア基礎講座は平成26年度は2回計画しているが、第1回目の第21回ボランティア基礎講座が6月21日、墨田区立川2-1-9 KHハウス パリアン研修室で行われた。今回の講座には、男性3名女性5名の計8名が参加した。



川越厚先生の講義を聞く受講生達



ボランティア活動の話をするボランティアリーダー

パリアン理事長・川越厚先生の「在宅ホスピスケアとボランティア活動」、訪問看護パリアン看護部長・川越博美先生の「パリアンボランティア概要」の講義があった。

続いて、現在活動中のボランティアリーダー6名が、日常のボランティア活動を紹介し、受講生の質問に答えていた。

受講後のボランティア参加意思調査で、全員が参加を希望した。訪問、サロン・ド・パリアンなど具体的な活動希望もあり、パリアンでの活動者に育ってくれることを期待している。

私がこの会に出席するようになってすでに2年以上の月日が経っている。もともと自分が通うクリニックの医師やナースの方から誘って頂いたのがきっかけである。

このクリニックへは、すでに進行していた自分のがんに対して、緩和医療を選択したことから通い始めたのだが、通院を続けて1年近く経った頃、いよいよ会社を辞めなければならないところまで体力が減退してきた。当初、頭では自分の死を覚悟したつもりでいたのだが、実際の四半世紀以上も務めた会社を辞める段になると、神経がとても不安定

になった。というのも、覚悟した死が退社と同時に

簡単に訪れる訳ではないからだ。この先これといってすることも行く先もないまま、自分の前にのっぺりと広がる、しかもどれだけあるかわからない時間を、病気の体でどう過ごしていけばよいのか。不安は恐怖になっていった。

そんな折、「がん患者さんやそのご家族が一緒に昼食会をしているのだけれど」とご案内を頂いた。サロン・ド・パリアンは毎週末に開かれているが、これに出席することで、眼前に広がるのっぺりとした時間に週ごとの区切りがつけられた。「自分の出掛ける場が出来た」という安心感も芽生えた。ドアを開ければ、雨の日も風の日も常に「(あなたを)お待ちしております」と

いうスタッフの明るい声が出迎えてくれる。毎回作りたての食事の湯気の向こうには、スタッフの穏やかな笑顔が待っている。それらは無言のうちに「あなたはここにいて=生きていてよいのですよ」というメッセージにもなっている。また、同席する患者さんやご家族からも影響を受けた。何気ない会話を通じて、自分と同様に不安や孤独感に苦しむ人達がこうして生きている、ということが実感できたし、あるご家族の方が口にした「今日と明日のことだけ考えましょう」という言葉は、それ以来私自身の指針となり、不安でパニックに陥りそうな時には何度も繰り返すおまじないの言葉にもなっている。

サロン・ド・パリアン (がんサロン)に出席して

芝田葉子

の言葉にもなっている。



6月13日のサロン・ド・パリアンの参加者

当初、もっと早期に最期の時を迎えると思われた自分が、ここまで生きて来られたこと、しかもそれなりの密度と質を保ちつつ時間を過ごしている、と感じられるのには、このサロン・ド・パリアンが果たした役割は決して小さいものではない。

7月18日のサロン・ド・パリアンは「HAWAII特集」

サロン・ド・パリアンでは、7月18日(金)にハワイの姉妹ホスピスの「ホスピスハワイ」とインターネットで結び、交流する。ホスピスハワイのCEOケンさんとSWミミさんが登場する予定で「ハワイ特集」を計画しています。がん患者さんおよびご家族でしたら、どなたでも参加いただけます。

開催場所：墨田区立川2-1-9KHハウス1階パリアン研修室、開催時間：11時30分、参加費：500円
参加ご希望の方はメール又はFAX、電話にてお申込みください。お越しをお待ちしています。

メール：volunteer@pallium.co.jp FAX：03-5669-8310 電話：03-5669-8302

第2回ボランティアの集い 7月19日(土)午前10時30分

平成26年度第2回ボランティアの集いは、7月19日午前10時30分から墨田区立川2-1-9KHハウス1階研修室で開催される。特別講演は、現在交渉中なので、決まり次第メール等で周知する。

出席希望者は7月15日(火)までにメールまたはFAXにてボランティアコーディネーターまたはボランティア担当・江口に申し込むこと。

メール：volunteer@pallium.co.jp FAX：03-5669-8310

平成26年度メモルの集いの開催日は9月6日と2月21日

平成26年度の「メモルの集い」は、9月6日(土)と来年2月21日(土)の2回開催を計画している。前年度のシュタム両国の会場より広いKHハウス・パリアン研修室での初めての開催となる。招待者は前年度までが1回あたり6名程度だったが、今回は10数名になることから、開催回数を2回にしても1年間の招待者数は、3回開催した前年度と同数以上が確保できる見通しだ。

メモルの集いの招待者リストの抽出および招待状の発送、開催当日の準備、ケーキ・お茶出しなどのお手伝い、司会進行係の選定などの作業があるが、開催が近づいたら、作業分担を決めて、別途お願いすることとする。

7月のパリアン勉強会・カンファレンス予定 (ボランティアも参加できます)

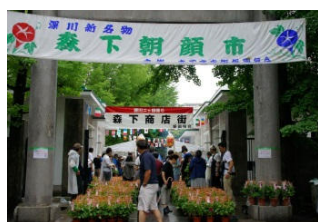
パリアン勉強会 : 7月4日(金)17時~18時

デス・カンファレンス : 7月25日(金)17時~18時



7月のボランティア活動予定

- ・ボランティアの集い：7月19日(土)午前10時30分～
- ・訪問ボランティア：7月は休会
- ・サロン・ド・パリアン：7月4日、11日、18日、25日
- ・手作りボランティア：7月22日(火)午後1時～3時
- ・事務ボランティア：7月19日(土)午後1時～



朝から賑わう深川神明宮境内の森下朝顔市

編集後記

7月21日、平成26年度第1回目となる第21回ボランティア講座が開催された。受講生は遺族の方、在宅ケアに関心のある方、学生などで年齢は20歳から47歳、平均で38歳という若い方々だ◆講座終了後のパリアンボランティアで活動したいかどうかの意志調査では、全員が「イエス」を表明した。若い方達だから就職している方が多いので、定期的な活動や頻繁な活動を求めても難しいかもしれない◆今、活動しているボランティアは限られており、欠員の補充にも支障をきたすことがある。そして最大の懸念はボランティア全体の高齢化問題である◆新ボランティアには定期的な活動ではなしても、出来る範囲内の活動をしてもらい、定着化を図っていくことが必要だと思う(江口勇)